

平成25年教育福祉委員会会議録

1. 招集年月日 平成25年6月11日
2. 招集の場所 可児市役所5階第1委員会室
3. 開 会 平成25年6月11日 午後4時32分 委員長宣告

4. 審査事項

協議事項

- 1) 慢性疲労症候群(筋痛性脳脊髄炎)患者の支援を求める意見書について

5. 出席委員 (7名)

委員長	佐伯哲也	副委員長	山口正博
委員	亀谷光	委員	山根一男
委員	野呂和久	委員	川合敏己
委員	出口忠雄		

6. 欠席委員 なし

7. その他出席した議員

議 員 伊藤英生

8. 職務のため出席した者の職氏名

議会事務局長	高木伸二	議会事務局 議会総務課長	松倉良典
議会事務局 書記	小池祐功	議会事務局 書記	上田都

開会 午後4時32分

委員長（佐伯哲也君） それでは、委員会のほうを始めさせていただこうと思います。

一般質問の初日明けということで、大変のお疲れのところ申しわけなかったんですが、ちょっと緊急に方向性だけ決めたいことがありましたので、急遽皆さんお集まりの本日の夕方ということで、開会を予定させていただきました。

私のほうから簡単に経緯のほうだけ説明をさせていただきます。

実は、また後からちょっと御意見をいただこうかと思いますが、伊藤英生議員のほうから慢性疲労症候群の患者さんの支援を求める意見書を出したいんだけどもという相談がありまして、正・副委員長と、あとは議会運営委員会の委員長、副委員長とも相談しているいろいろ考えたんですが、私も含めなかなか聞き覚えのない病名だったということ、患者さんが非常に深刻に悩んでみえるということ等がありまして、真剣にこの件に関しては取り組もうということになりました。

そこで、なかなか我々素人の中だけで話をしておってもわからないところが多々あったもんですから、参考人招致ということで御本人さんが来ていただけるかどうかわかりませんが、その辺を含め、1回話を聞くような場を設けていきたいなという思いから今回この会を開かせてもらっております。というのも、可児市議会の委員会条例の中でルールがございまして、まず委員会の中で参考人を呼ぶかどうかを承認を得ると。得た段階で、今度それを議長のほうに報告すると。議長のほうから参考人の方に連絡を入れるというルールがあるもんですから、来週の木曜日に当委員会のほうは予定しておるんですけども、少しでも早くこちらのほうの結果を出して、先方の方にも連絡を入れたいとなったもんですから、本日開会をさせていただきます。

それでは、初めに山口副委員長のほうから経緯を含めた提案説明のほうをお願いしたいと思います。よろしくをお願いします。

副委員長（山口正博君） ただいま委員長のほうからお話がありましたとおり、そういう申し出がありまして、委員長のほうから少し研究をしてくれという要望がありましたので、この期間に研究をさせていただきました中で、皆様も多分初めて聞かれる病気だというふうに思いますので、私なりにまとめたものを少し説明をさせていただきます。

慢性疲労症候群は、原因不明の強度の疲労が長期間、6カ月以上に及び継続する病気であります。名称としては別に、筋痛性脳脊髄炎やウイルス感染後疲労症候群など、英語の頭文字をとってCFS、ME、PVFSと呼ばれ、重篤度が伝わらない、慢性疲労と区別がつきにくいということから、慢性疲労免疫不全症候群CFIDS、略してCFSと呼ばれています。

症状として、身体・精神両方に激しい疲労感が生じます。疲労の程度には個人差があり、何とか働ける程度から寝返りも打てない人もいます。患者の約4分の1は外出が困難か寝たきりの状態であり、身体活動レベルは多発性硬化症、後天性免疫不全症候群、全身性エリテマトーデス、関節リウマチ、最終段階の腎不全、慢性閉塞性肺疾患などの病気と匹敵すると

報告されています。

さまざまな部位の痛み、知的活動障がい、過敏性、体温調節失調、睡眠障がい、精神障がい、中枢神経障がい、朝のこわばり、甲状腺の炎症、息切れ、低血糖発作、不整脈、発疹などの全身症状も伴います。

診断基準としては、6カ月以上持続する原因不明の全身倦怠感を訴える患者が3つの前提を満たしたとき、臨床的にCFSが疑われます。ただし、抗アレルギー薬などの長期服用者とBMIが40を超える肥満者に対しては、当該病態が改善し、慢性疲労との因果関係が明確になるまでCFSの診断を保留し、経過観察とされており、診断に苦慮しているのが現状であり、CFSの機序、病原については国内外とも生理学、疫学的な研究がされているが、はっきりしないのが現状であります。

CFS患者は、心の中の問題だけにされてしまう傾向があり、本来なら神経内科医が診る疾病であります。仮病や心気症的な振る舞い（注意を引いている）に思われたり、時には詐病とまでされ、精神科に回されることが多く、診察を拒否する医師さえいるので、患者は診断を受けるために長期の時間苦しむことになり、病気を難治化、長期化してしまっています。また、多くの患者は働くこともできず、障害年金も受給されないことが多く、経済的に困窮することになります。周囲の人々から理解を得られにくく、怠けている、精神的に問題があるなどとされる傾向があり、CFS患者の自殺率は非常に高いという報告があります。こうした周辺環境が関与している可能性が高く、またCFSは日本全体においても大きな経済負担になっており、CFSによる日本経済的損失は約1.2兆円と推定されています。

以上のことから、私も大変な病気だなというふうに感じております。したがって、別紙のとおり意見書（案）を提案させていただきますので、御審議のほどよろしく願いいたします。

委員長（佐伯哲也君） 審議自体は来週の常任委員会のほうでさせていただきますので、副委員長、どうも御苦労さまでした。

それで、この件に関しまして事情をよく御存じの伊藤英生議員にも意見をお伺いしたいと思いますが、御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

それでは、伊藤議員、マイクのある前の席のほうにお着きください。

それでは、伊藤議員、よろしくお願いします。

委員外議員（伊藤英生君） 本日はお疲れのところ、この意見書に絡みまして皆様御参集いただきまして、まことにありがとうございます。

事の経緯は今説明がありましたとおりでございまして、岐阜市の和田議員のほうから私と板津博之議員のもとに相談がありまして、今回たまたま私のほうから皆様に御提案させていただいておりますけれども、既に同じような意見書が岐阜県議会のほうでも全会一致で採択されております。また、今後、岐阜市議会、羽島市議会など他市の議会にも広がっていくというふうに聞いておりますけれども、今度の夏の24時間テレビ、こちらのほうでも特集を組

んでいただけることが決まっております、多くのマスメディアにもこれから注目が集まる
ところでございますが、可児市在住の方でして、活動されている方が。まさに地元の議会と
して我々もこの病気について理解し、そして後押しをしてあげたいという気持ちがあります。

また、難病指定ということで、厚生労働省には非常に難病指定のウェイティングリスト待
ちの難病の方を持っている、活動されている方がたくさんいますが、彼女の活動がこういっ
た活動家の人たちに対して、勇気を与える活動であると私は理解しておりますので、ぜひ地
元に住んでいるこの塚本明里さんの活動を皆様も御理解いただき、そして応援してあげたい、
そういう気持ちでおりますので、ぜひともよろしく願いいたします。

委員長（佐伯哲也君） ありがとうございます。

本日は、皆さんに知見を深めていただくというところで会を設けておりますので、今お配
りしてあります意見書（案）を見ていただきながら、またこの後ちょっとビデオを見ていた
だくような時間もつくりましても、質問はまた来週の常任委員会のほうでとりますので、
これから皆さん来週までにさまざまインターネット等使いながら、また勉強のほうをしてい
ただければと思います。

それでは、今説明をしていただきましたが、本件に関してより理解を深めるために、この
病気を患い闘病生活を送ってみえる可児市在住の塚本明里さんとお母様の塚本弥生さんにこ
の件に関する参考人として出席をしていただき、御意見をお伺いしたいと思いますが、これ
に御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

ありがとうございます。それでは異議なしと認め、6月20日午前10時より本委員会の参考
人としてお2人を招致し、御意見を聞くことといたします。

また、本日出席をしていただきました伊藤英生議員にも6月20日開会の委員会に出席して
いただきたいと思います。御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

異議なしと認めますので、伊藤英生議員、出席をよろしく願いいたします。

本日お配りいたしました意見書につきましては、次回参考人の意見陳述、質疑が終了した
後に、皆様と協議を行いたいと思いますので、よろしく願いをいたします。

それでは、これにて教育福祉委員会を閉会いたします。

閉会 午後4時44分

前記のとおり会議の次第を記載し、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

平成25年 6 月11日

可児市教育福祉委員会委員長